

しまね・ハツ・建設ブランド

県土木部技術管理室は、本年度スタートした「しまね・ハツ・建設ブランド」登録制度で、4月下旬に1回目の1次選考会を行い、国土交通省など公共機関での施工実績が豊富な4件と、フィールド工事による実証実験が必要な案件3件を選んだ。実

証実験については、近く、発注機関を対象にしたプレゼンテーションを開催。各機関から提出されたフィールド候補工事をとりまとめ、6月末の事前協議で決定する。またNETIS案件は、7月初めに予定している土木部積算・施工管理等基準検討委員会(準検討委員会)で審査、承認されれば第1号の登録ブランドが誕生する。

3件 実証実験で評価

プレゼン経てフィールド工事決定へ

フィールド工事の対象に選ばれたのは▽切梁受け金具「スルーサー」(鶴三研テクノクリエイト)(松江市)▽再生砕石RCI-40(瓦Coon)山建ブランド(出雲市)▽アンカー工法ラップ管使用長期保護材(㈱日本海技術コンサルタンツ(安道町))で、いずれも製品、材料の種別となる。説明会は5月31日、浜田合庁▽6月2日、松江・出雲合庁で開催。各企業の開発担当者がプレゼンテーションを行う。

件下での適応性▽活用効果一など評価基準に基づき、最終的に基準検討委員会で承認する。複数工事での実績が要求されるもの、完成後の追跡調査が必要なものなど、技術や製品によって登録までの期間が異なる。

と間に合わない(技術管理室)と、反響の大きさに驚いている。民間が開発した新技術や新工法は、施工実績がないと県工事への導入は困難な上、企業の申し入れに対しても統一の採用基準がなく、各発注機関にゆだねられているのが実情。登録制度を確立することで、県が発注するすべての工事を対象に、適応可能な技術については各発注機関が積極的に採用する方針。

1次選考 7件選定

応募20件超 高い関心

1回目の選考会では、県内の建設関連企業が開発・製造した技術・工法、施工材料など8件を審査。うち4件は国土交通省の新技術情報提供システム(NETIS)登録済みで、公共発注機関での施工実績もある

「追跡調査を要する技術」「フィールド工事の追加が必要な技術」の3段階で評価。▽ニーズとの適合▽技術の成立性▽品質と出来形に与える影響▽実施案

3月の募集開始から技術管理室には問い合わせが殺到。第1回審査対象の8件を含め、これまでに20件を超える書類提出があり、6月上旬には2回目の1次選考会を行う。また、書類提出には至らないまでも、登録希望の案件が数十件控えており、「1次選考だけでも初年度は5-6回開かない」

基準検討委で審査する案件

▽材料 既プラスチック利用アスファルト舗装材「エ

ク・フジイ(松江市)▽工法 無線式地盤変位測定器「のび太」(㈱シンク・フジイ(松江市))

▽工法 無水掘工法ロックアンカー工、ロックボルト工における削孔システム(㈱山重組(浜田市))

建設ブランド登録制度は公共事業費の大幅削減が避けられない状況下、民間技術を公共工事に積極的に導入し、県内建設関連企業の技術開発や製品化を支援する狙い。登録技術は、県工事で活用するほか、インターネットで全国に向けて情報発信する。